

防水工法の選定

2-5. 立上り非撤去工法

2-5-1. 立上り非撤去工法とは

既存防水層を全て残す工法です。廃材がほとんど発生しない工法です。

■立上り非撤去工法



■採用時のメリット

- 施工中の漏水リスクの低減
- 工期の低減
- 廃材が少なく、騒音低減

■採用時のデメリット

- 適切な新規防水層の選定が必要
- 既存防水層の下地処理のコスト増
- 既存立上り防水層の状況確認が必要

立上り非撤去工法を採用する際には、**全国防水リフレッシュ連合会組合員またはメーカーによる事前調査が必要**です。また、下地処理によりコスト削減に繋がらない場合もあります。(調査後1年以上経過した場合は再調査が必要)

立上り非撤去工法採用までの流れ

